

熊本県天草地域のジオパークに向けた取り組み

Working on 'Amakusa Geopark'

鶴飼 宏明 [1]; 廣瀬 浩司 [2]; 長谷 義隆 [3]
Hiroaki Ugai[1]; Koji Hirose[2]; Yoshitaka Hase[3]

[1] 御所浦白亜紀資料館; [2] 御所浦白亜紀資料館; [3] 熊大・理・地球
[1] Goshoura Cretaceous Museum; [2] Goshoura Cretaceous Mus.; [3] Dep't Earth Sci., Kumamoto Univ.

<http://www5.ocn.ne.jp/~g-museum/>

天草市教育委員会では天草市文化振興計画に基づき、市内各地の文化施設のネットワーク化による有効活用と野外の文化遺産を活用するフィールドミュージアム化を軸とする「全島博物館構想計画」を策定した。この計画の具体的な取り組みの1つに、ジオパーク構想の推進がある。この構想、仮称「天草ジオパーク構想」は御所浦地区を起点として、天草全島に分布する自然遺産を世界ジオパークネットワーク(GGN)に登録することである。

御所浦地区は、恐竜を始めとする貴重な化石を含む地質があり、旧御所浦町で行っていた御所浦地域を1つの博物館と見立てて整備を行う「御所浦町全島博物館構想」での活動などが評価され、平成19年5月に『日本の地質百選』に認定された。御所浦地区では平成9年以降現在まで、化石採集場、化石公園、アンモナイト館などの整備、島内各地の40箇所を超す地点に看板または恐竜を中心とする古生物のオブジェを設置している。これらの地点は海上タクシーやサイクリングなどで見学することができる。この地区には『日本の地質百選』認定以前の平成13年から化石採集や磯観察、とんとこ漁、民泊などの御所浦の自然と文化を体験できるプログラムを利用し、小学生から高校生の修学旅行団体が訪れている。修学旅行以外の団体では、子供会、学校の授業、体験型観光旅行などが化石採集体験を利用している。これら御所浦地区での活動は、ジオサイトを整備し、そのサイトを目的に旅行者が訪れることなどから、まさにジオパークにおけるジオツーリズムにあたるものであり、すでに定着している。

「天草ジオパーク構想」は、2009年に協議会を発足させ、御所浦地区の日本ジオパーク申請を行う予定である。日本ジオパーク申請は天草市が対処する。その後3年間をかけ、天草市と近隣の自治体を含む、天草地域の世界ジオパークネットワークへの申請を考えている。

今後の課題は、ジオツーリズムにおけるボランティアガイドの養成および外国語のパンフレットおよび解説板の作成がある。現在は、白亜紀資料館学芸員がガイドを行っている。今後はボランティアガイドを機能させる組織の運営とガイドプログラムの作成等に力を入れたい。また、世界ジオパークネットワーク申請のため、将来見込まれる外国人観光客対象のパンフレットおよび解説版の作成を検討している。